

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊集会に必要なプログラムのヒントを知る。
2. プログラム開発の必要性を理解する。
3. スカウト技能をビーバースカウト年代の特性に合わせてプログラムにアレンジできる。
4. 年間プログラムの作成ができる。

指導上のねらい

1. ビーバースカウト年代向けのゲーム、クラフト、ソングなどの体験を通じてプログラム立案のヒントを与える。
2. プログラムのヒントは様々な場面で得ることができることを理解させる。
3. スカウト活動の特徴である自然の中での活動やスカウト技能を応用したプログラムがビーバースカウト部門でも大切であることを理解させる。
4. 年間プログラムの作成を通じて、年間プログラムの立案過程を理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・プログラム体験に必要な備品一式 (ロープ)
- ・BVS リーダーハンドブック
- ・参考書籍「スカウトハンドブック」
- ・ハンドアウト「年間プログラム」 (スタッフが作成したもの)
- ・ワークシート「年間プログラム」

セッション展開

時間	セッション内容	指導上の留意点・ 準備品・支援
13:00	1. 導入・・・・・・・・・・・・・・・・ (5分) ・ このセッションの目標について説明する。 ・ § 1、 § 2について振り返る ＊アイデアからプログラムを開発する手順を体験実習してもらうことで理解し、年間プログラム作成、隊集会プログラムの実習に繋げるようにする。 (このセッションではプログラムは隊集会で実施する具体的な内容を意味すること、プログラム開発はアイデアを実施するものにしあげる課程のことを意味すること。)	
13:05	2. 展開・・・・・・・・・・・・・・・・ (85分) (1) ビーバースカウトのプログラム ① よいプログラムの要素 (隊長ハンドブック P5 2) ④を読む。プログラムのなかにはボーイスカウトの活動としてなくてはならないものがあり、観察・推理、問題解決、創意工夫、スカウトスキルなどスカウティングの香りが感じられるものであることを強調する。 ➡ 隊長ハンドブック P9 4 3. スカウトスキルとビーバー活動 ～ス	BVS リーダーハンドブック

<p>13:10</p>	<p>カウティングの香りのする活動を～ (後の①グループ作業に繋がる)</p> <p>② プログラムのヒント (リーダーハンドブック P76～) プログラムのヒントがある P76 から P93 まで確認する。 (載っている事あることについて項目ごとの細かい説明はしない)</p> <p>③ プログラム開発にあたっては、あらゆる方面でその材料となるものを日常的に探しておくことを心がける事、様々な場面で得られる素材がプログラムのヒントに繋がることを伝える。(ex. みみくりーず…)</p> <p>(2) プログラム開発の実習</p> <p>① グループ作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スカウトスキル「観察」 <p>「落ち葉・どんぐり」を使いアイデアをふくらませ「やれそうなもの」をリストアップする。参加者にロープを渡し考えてもらう。</p> <p>カブスカウト隊のカブブックそれぞれに「観察」、ボーイ隊の観察章がある。それを先取りするものでなく、ビーバースカウトの年代に合わせたアレンジをしてスカウトスキルを体験させカウティングの香りのする活動を提供することができる。少しずつ体験させビーバーのうちから慣れ親しむことでスカウトスキルのスムーズな習得につながることを伝える。</p> <p>落ち葉ジャンケン (葉っぱの特徴をみわける) など</p> <p>(アイデア素材やスカウト技能から「やれそうなもの」を出す方法を提示する。)</p> <p>落ち葉(観察)を例にあげてみたがこのように「やれそうなもの」にはスカウトの進歩やもちろんビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」、運動機能を高めるなどのねらいがあることを認識してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やれそうなもの」を選び実施するための工夫を加え「実施できるもの」にする。 <p>(実施計画書のレベルまで求めない。プログラムの概要が示されればよい。)</p>	<p>落ち葉、どんぐり</p>
<p>13:20</p>	<p>(3) 年間プログラムの基本的な作成手順の確認と年間プログラムの作成</p> <p>参加者に年間プログラムは誰がいつ、どこで、どの様に作っているか質問する。</p> <p>リーダーハンドブック P57～読みあい作成手順を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P57 年間プログラムを作成するときの留意点について説明する。P59 保護者の参画についてふれる。 ・P57①「タイトル」は重要でありスカウトの隊集会参加へのモチベーションや保護者へのアピールにつながることを理解させる。 ・P60の2. 年間プログラム立案の手順について説明する。 <p>ニーズの集約 (やりたいこと・誰が? やらせたいこと・誰が? やらなければならないことは・なに?) 質問しながら説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P61①ビーバースカウト活動の目標の確認を読んで理解させる。②③④ について要点を話す。 	<p>年間プログラム ワークシート</p>

13:50	<p style="text-align: center;">＜ 年間プログラムの手順 ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順の確認 <ol style="list-style-type: none"> ① やれそうなものをリストアップする。 もちろんスカウトの進歩、ビーバースカウトのやくそく、ビーバースカウト隊のきまりなどの教育的効果を考慮して考えることを伝える。 ② 実施するプログラムを選び出し、活動の概要、ねらいを定める。 ③ タイトルを定める。再度、タイトルの重要性を伝える。 ④ 木の葉章科目を定める。 ⑤ 年間プログラム予定表用紙に記入する。 <p style="text-align: center;">＜ 実習 ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間プログラムを作成する。 <p>(4) 年間プログラム作成の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビーバースカウト活動の目標が反映されているか確認する。 ・進歩科目、スカウトの憧れや興味、保護者・社会・スカウト運動のニーズなど様々な要素が考慮されて、バランスの良い年間プログラムになっているか確認する。 <p>P65の3、年間プログラムの分析と評価について触れる。</p> <p>次年度へのスカウトの成長をどう進めるか考えることに繋がることを伝える。</p>	
13:55	<p>4. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (5分)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 工夫してプログラムを開発することが活動の幅を持たせ、楽しいプログラムを実施することに繋がることを強調、伝える。 (2) ビーバースカウト活動の目標が反映されていること、進歩科目を含めた様々な要素が考慮されて、バランスのとれた年間プログラムになっていることがスカウトの興味を持続させ、スカウトの成長を促すことに繋がることを強調し理解させる。 (3) 年間プログラムのアイデアは会議室など、硬い雰囲気な中でなく、喫茶店など、和やかな雰囲気の中で行うことで様々なアイデアがでてくることがあることを添える。 	